諸國産出石類畧説

860
6

860-6

諸國産出石類畧説

帝國圖書館

明治廿一・十二・廿六・購入

諸國産出石類畧説

目次

一、梅ヶ畑本山越砥之説

一、奥州伊達信夫両郡産出石之部

一、岩紺錄青素石産地并製法畧書

一、美濃國土岐郡下石村生産紺青書上帳

一周防吉敷郡小鯖村雲母石製方畧説

以上

梅ヶ畑本山越砥之説目次

出所山名

一ヶ年掘出高

砥礦

掘取手段

仕上

差等并砥片大小等ノ品目

砥工所用器械名目

以上

梅ヶ畑本山、越砥之説

　鳴滝砥ト称ス

○出所山名

山城国葛野郡梅ヶ畑郷越砥當時出所山名左ノ如シ

中山　東大津具山　裏大津具山　菖蒲ヶ谷

具殿

右五箇所開山年月人名詳ナラス

○一ヶ年堀出高

惣計凡三万八千百三十貫目

○砥礦

越砥ハ板ノ如クニシテ厚サ大凡五寸ヨリ一寸ニ至ルモノ斜ニ重畳ス一礦ニ大抵七八十枚一枚毎ニ金（カネ）ト稱シ薄クシテ堅硬ナル黒石板ヲ夾ム又烏ト稱スル黒石板アリテ之ヲ間隔シ五層トナス上層ニアルモノ四十枚許（四十八枚重畳スルモノハ最上品ヲ得ヘシ）上等品也　但上面七枚ハ天井ト稱ス中等トス第二層ニアルモノ五六枚アイサイト稱シ中等ナリ第三層ニアルモノ十五六枚並砥ト稱シ下等ナリ第四層ニアルモノ五六枚巣板ト稱シ亦下等ナリ第五層ニアルモノ五六枚白砥ト稱シ最下等ニシテ用ニ堪ス第二層ヨリ以下ヲ総号シテ敷ト云フ上層上等ノ藉物ト云フ意ナルヘシ右之如ク一礦ニ数等ノ砥叢合シ岩石其左右上下ヲ包圍ス廣狹ハ礦ニヨリ定マラス

○堀采手段

砥質ノ石山上ニ現出スルモノヲ砥蔓ト云フ即チ上層ノ上面也蔓ニ循ヒ掘取ルコト也先現出セル砥胴ノ傘ヲ鶴嘴ニテ鑿毀チ其所ニ矢ヲ槌ニテ打込ミ砥ヲ掘起ス凡竪六尺横三尺深三尺許掘試ミ質ノ善悪ヲ峯シ善ト認レハ竪一丈二三尺横三尺深一丈許ニ掘擴ケ而後砥胴ノ傘ニ矢ヲ打込ミ順次ニ掘越シ尚下ノ方ヲ掘取ント欲スレハ下ノ方ニテ幅三尺許ヲ横ニ掘残ス是ヲ棟（ハリ）ト云フ此レヲ以テ崩壊ヲ防ク然シテ其前後ヲ掘下ケ行キ後ニハ棟ノ下マテモ掘穿チ砥ノアル限リ掘取ルナリ掘取ル所ノ砥板ノ大小固ヨリ一定ナラス大抵長六尺幅三尺許ナルヲ大ナルモノトス

○仕上

掘取リタル砥板ノ上層ヲ剤子ニテ善剤（ハツ）リ均シ文理及大小厚薄ヲ相シ鑿ヲ以テ方面ヲ正シ両人其前後ニ対坐シ是ヲ以騎位シ蔓鋸ヲ持シ一前一却シテ研リ片トナシ剤子ヲ以凸凹ヲ均平シ而後礪（アラト）（紀伊産）ニテ磨シ又濱ト稱スル砥（紀伊肥前産）

ニテ磨シ又浄間寺砥（越産）革ニテ磨ス之ヲ仕上トナス

○差等并砥片大小等ノ品目

一礦中數等ヲ分ツコトハ砥礦條中ニ言フ所ノ如シ一等中ニ又差等アリ色ヲ以テ之ヲ分ツ左ノ如シ

上等　鵝子黄色

中等　浅碧色

下等　黯黒色

仕上タル砥片ノ大小厚薄等品目ヲ分ツ左ノ如シ

十八挺切　長七寸七分　幅二寸六分　厚二寸四分

二十四切　長七寸二分　幅二寸四分　厚二寸

三十切　長六寸九分　幅二寸　厚一寸

六十切　長五寸六分　幅一寸七分　厚七分

八十切　長五寸一分　幅一寸五分　厚六分

○砥工所用器械名目

矢（ヤ）　槌（ツチ）　鶴嘴（ツルハシ）　鏨（タガネ）　蔓鋸（ツルノコギリ）　劃子（ハツリ）

ガラス使用

奥州伊達信夫両郡産出石之部

一、赤瀧石　　伊達郡梁川村産

右産出地石赤瀧山ト稱ス梁川村近方ナリ此近郷石工之ヲ竃鋪石等ニ用フ上品ナルハ砥石ニモ用フ雨ナラントスル時湿氣ヲ含ミ色ヲ変ス古ヨリ石山税アリ

一、湯花　　信夫郡庭坂村産

同村ノ内高湯温泉ノ産ニシテ温泉壺ヨリ春

秋両度温泉垢ヲ取リ乾シテ湯花トナル

一、硫黄　信夫郡上石倉村ノ産

上石倉村ノ内思山又吾妻嶽トモ稱ス土砂硫黄氣ニ焼キコト錦ノ如シ偶青キモノハ黄連ナリ先年ハ頂上一圓硫黄ヲ生ス近頃剷盡シ至今砂石ヲ煎シ硫黄ヲ取ル其産少ク因テ之ヲ以テ業トスル者ナシ

一、硯石　信夫郡土湯村産

海辺ヘ遠キ故未タ之レヲ掘リ業トスル者ナシ因テ窓計相知レ不申候

一砥石　信夫郡櫻本村産

今般産物取調ニ付試ニ為掘出候出産ノ地西戸川水中故難計候

国立国会図書館　タイトル『諸国産出石類略説』 請求記号 860-6　ガラス使用

岩紺録青素石産地并類出畧書

長門國美祢郡長登村

岩紺青岩録青荒石産地銘書

岩紺青岩録青素石多クハ世界金山ヨリ産スル物ニテ此石ト知ズ吹金ニナスコトアリ金此両種ハ吹金ノ使ニナラズ当長登村大銅山往古盛栄ノ時若干出産ス他ノ産地左ニ誌ス

一長門國與阿武郡蔵目喜村

一石見國笹ケ谷銅山

一播但國境生野銀山

一越前國細野銅山

一飛彈國和佐羿銅山

一越後國村松銀山

一攝津國多田銀山

一陸奥國所々銅山銀山

一石見國鹿足郡長野村銅山

一石見國鹿足郡長野村銅山

　此地ヨリ硝子色ノ緑青石産ス

其他支那ヨリ長崎表ヘ舶来ス岩紺緑青荒石盡リ當地ニ買入レ細製ス依テ日本鉛産記ニ長門國長登ノ緑青ト之レアルナリ

岩紺青岩緑青水干製法ノ略書

一荒石ヲ鉄鎚ニテ大豆粒位ニ打砕キ水ニ浸シ置ク也

一石挽ヲ碓ニテ引キ篩ニ掛ケ滞ル物ハ幾度ヲ數ヘス碓ト篩トニ交々掛ケ至細末ナルヲ望ム故ニ碓篩皆水ニ托シテ行ヒ只篩ニ通スルノミヲ要トス

一簁ニ掛ケシ粉石ヲ水ト共ニ焼物ノ鉢ニ入レヨセニテ鉢ノ縁ヲ揮キ震動スルニ従ヒ真ノ粉石ハ鉢底ニ固留シ上石ノ悪物ハ上ニ固留ス是ヲセツカイニテ去リ捨ツル也

一前製卒リシ物ヲ復碓ニ掛ケ上製ニナスニ立鉢ニ入レ桶ノ中ニテ水ヲ汲ヒ交ゼ起テ、他ノ桶ニ移ス此時一二三ノ細麁ヲ分ツ麁ナル物ハ復碓ニ掛ケ上細製ヲナス

一前製卒リシ物ヲ水製仕上ノ盆ニテ盥ノ中ニ水八分ヲ入レ此盆ヲ漂浮シテ徐々ニ揺リ悪物ヲ盆ノ欠タル口ヨリ去リ真ノ録青ニナス

一録紺青ヲ製スルニ用ユル所ノ各器械ニ渓テ残留スル粉石ト去捨ル滓泥トヲ樋ニ流シ滞ル物ヲ取テ上製ニナス色薄キ泥ノ如ナル物ヲ白録青ト稱シテ用ユル也

一全製卒リシ物ヲ素焼ノ土器ニテ干シ成就スルナリ是ヲ包ムニ薄様紙ヲ用ユ

一最初荒石ヲ上中下品ト分ケ製スルニ依リ製シタル物モ則上中下品ノ位アル也

一岩紺青製法總テ前条ノ如紺録青石性ハ同シ

ガラス使用

ト雖紺青石ハ稀ニシテ荒石ノ色異ナル物アリ其上品物ヲ製スルニ篩ノ秘アリ其法古ノ便ナルヲ擇ギ秘スルニ非ス只多年ノ積功ヲ以テ自ラ得ル所ノ術ナレハ書ニ記シ難ク現業ノ検査ヲ乞フノ外ナシ

岩紺青岩録青並今賣價

一岩紺青上々品　百六十目斤ニ付、代金拾八両

但空青白空青同價

一同　中品　同　同　拾両

但空青同價白空青金八両

一同　下品　同　同　五両

但空青白空青同價

一岩録青上々品　同　同　一両一歩

一同　中品　同　同　三歩二朱

一同　下品　同　同　一歩

一同白録青　同　同　一両

右岩紺録青荒石産地製法賣價叢書之通ニ御座候大概年毎ニ日本國中ヘ賣出ス所ノ高五千両

ガラス使用

モ之レ有リ候所四五年来他国往還致リ難ニ付
此業法暫時停止ニテ今時上品業有リ合セズ法
試掘ノ為有合セノ品差出申候　以上

壬申五月

美濃国土岐郡下石村生産紺青書上帳

一紺青石
　　　　　美濃国土岐郡下石村

右当村字日跡坂并荒神洞ヨリ出申候農業ノ暇
々ニ一ケ年ニ凡千二百貫目程堀出申候併シ其
堀出候場所ノ模様ニヨリ紺青多少共以眼ト見
込相立不申候得共兼願之通概算調出申候儀ニ
御座候

右生紺青千二百貫目此堀人足九千六百人程
代價凡金四百両

丹

一生紺青六百貫目　村方ニテ陶器画之具ニ相用申候

此代金二百両

一生紺青六百貫目　隣村江売拂申候

此代金二百両

右生紺青製法之儀ハ素焼竈ニテ焼是ヨリ摺鉢
江入レ竹ノサヽラニ而水ヲ入レ摺ヘシ是ヨ
リ石ト砂正味ト水ニテ立流シ分ケ此正味イツ
カセ水ヲ切リ跡残リシ正味摺鉢エ入レ入棒（陶器製ノスリコギノ事也）
能摺是ヨリ陶器絵之具ニ相用申

候

一生紺青一貫目ニテ　上製百八十目位出来
申候　代銭三百三十三銭三厘三毛

一生紺青一貫目摺上六人手間

此摺賃代五十銭

但シ水車ニテ摺候得ハ手間隙少ク候得共
摺方不宜候ニ付人手間之方ニ取調申候

一生紺青一貫目　素焼薪代

此代銭一銭

右一ケ年ニ製造高　百八貫目程出来申候

右之通リ御座候

右村
副戸長　安藤東三郎

副戸長　林甚助

戸長　加藤周助

明治五年七月

周防吉敷郡小鯖村雲母石製方畧説

雲母石ハ吉敷郡小鯖山間ノ土中ニ産スル物ナレハ其所在ヲ捜索シソノ精粗ヲ撰ヒ牛斧鶴嘴等ヲ以テ掘出シ杵臼ニテ細カニ砕キ桶ノ類ニ入レ水ニテ浸シヨクヨク攪擾シソノ濁水ヲ壷ニ入レ又其滓ヲ研キ幾度モ前ノ如ニ為シソノ滓ノ大概尽ルニ至リ彼ノ壷ニ入レタル所ノ上澄ヲ去リ黄舟ニ盛リ水ヲヨク滴シ並ヘタル板ノ上ニテ乾シ上ケ砂ニ入レ納ム也

ガラス使用

860
6

製造人
吉敷郡上小鯖村畔頭鰐石伊左エ門組
伊藤小市郎